

GS02-5 患者の残薬調整のための福岡市薬剤師会との共同取り組み

—節薬バッグ運動について—

○小柳 香織^{1,2}, 窪田 敏夫¹, 小林 大介¹, 木原 太郎², 吉田 武雄², 三井所 尊正²,
打越 英恵¹, 三浦 智子¹, 高木 淳一², 瀬尾 隆², 島添 隆雄¹

¹九大院薬, ²福岡市薬剤師会

医療費の増大は年々深刻化しており、医療費削減を目指し継続性のある取り組みを実施することは、薬剤師の職務として重要である。福岡市薬剤師会では平成 24 年 6 月より、医療費削減・無駄の少ない薬剤適正使用を目指した「残薬調整・節薬バッグ運動」を開始した。九州大学は当運動に計画・立案の段階より参画し、共同研究を行っている。

当運動は平成 24 年にトライアルを行い、外来患者の残薬の現状とその有効活用率を調査した。市内 31 薬局において約 2.5 ヶ月間、252 名の残薬を調査し、総残薬金額 839,655 円、削減薬剤金額 702,695 円、残薬の約 84%が有効活用可能であった。その結果を受け一部運用を変更し、平成 25 年より福岡全市 650 薬局に拡大し、現在も継続実施中である。同年 9 月末現在 1,245 枚の処方箋に対し 3,283,678 円の削減を行い、全処方薬剤金額に占める削減率は約 20%となっている。

これらの結果から、残薬調整は医療費削減に有用な取り組みであることが明らかになった。また、今後は運動の拡大・定着を図るとともに、残薬調整の過程とその数値の解析から、患者の服薬アドヒアランス向上に資する服薬指導の実現も考えていきたい。

本シンポジウムでは、節薬バッグ運動を、その内容・結果とともに、地区薬剤師会・薬局薬剤師と共同で行う臨床研究としても紹介したい。